

誰一人取り残さない、持続可能なまちへ――。

美しい地球を

未来の子どもたちにもたたちに――。

三芳町長 林伊佐雄



▲三芳町の姉妹都市、ペタリング・ジャヤ市（マレーシア）での植樹式

そ

の圧倒的な孤独は、畏敬の念を起こさせ、地球にある存在すべては、かけがえないものだとかわかった」

1968年、宇宙船アポロ8号が、月の軌道を回った時、宇宙飛行士ジム・ラヴェールの語った言葉です。宇宙の中で青く美しく輝く地球。地球は、私たちのかけがえない故郷。その姿を思い浮かべると、地球は私たちの故郷「Earth our home」という強い思いに駆り立てられます。

世界を沈黙させた少女

1992年、ブラジルのリオデ

ジャネイロで国連環境開発会議※（地球サミット）の開催に際して、日本のNGO代表であった公益社団法人日本青年会議所のセクレタリーとして現地に行く機会をいただきました。この地球サミットで、世界を5分間沈黙させた少女がいます。子どもの環境団体の代表として当時12歳のセヴァン・カリスは、夢があります。「私の世代には、夢があります。いつか野生の動物たちの群れや、たくさんの鳥や蝶が舞うジャングルを見ることが。でも、私の子どもたちの世代は、もうそんな夢をもつことができなくなるのではないか？あな

※国連環境開発会議：182か国および多数の国際機関、NGO代表などが参加し、環境と開発をテーマに開催された国際会議。

私たちは、私ぐらの歳のときに、そんなことを心配したことがありませんか。あなたたち大人がやっていることのせいで、私たちは泣いています。」

地域で考え、地球規模で行動する

このかけがえない美しい地球を未来の子どもたちに残してい



▲木洩れ日が差す平地林。

なくてははいけません。都市庄によって平地林の減少が進む当地域で、先人たちに学び、植樹をし、美しく豊かな自然と多くの生物が共存する環境を保全、再生、拡大していく必要があります。

自然地域は、たとえ遠く離れていても、東京やシカゴのような都市にとって必要不可欠な存在。肺がなければ筋肉を動かせないのと同じです。当地域の平地林も、東京やシカゴの肺、いわば「命の砦」になって支えあっているのです。

3 価値のあるものはすべて、他の人の中にある

～「Together」オリパラのレガシー～

三芳町は東京2020オリンピックでオランダ女子柔道チームのホストタウンでした。大会ではし烈な戦いの末、サンネ・ファン・ダイケ選手が銅メダルを獲得。彼女は「Together」、「愛や幸せ、価値のあるものはすべて、他の人の中にある」の言葉で、共に生きることを、そして生きる意味を私たちに教えてくれました。

オリンピック・パラリンピックは閉幕しましたが、サンネが教えてくれた「Together」の精神は私たちの心にレガシーとして燃え続けます。



▲オランダ女子柔道チーム選手団の見送り

五輪のモットー「Together」

オリンピックのモットー「より速く、より高く、より強く」。これに、昨年開催の東京大会から「共に(Together)」加えられました。これには「世界中の人々がスポーツを通してさらに連帯すること」への思いが込められています。



▲オランダ女子柔道チーム選手団の見送り

2 明日のまちづくりへパラダイムシフト

～(仮称)みよしフォレスト・シティ構想に向けて～

未来のまちづくりビジョンを描く上で、プラネタリー・バウンダリーの中で持続可能な町の未来像の再構築が必要です。

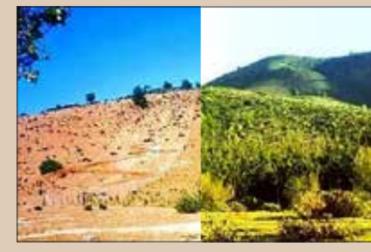
- 1 プラネタリー・バウンダリーに基づくSDGsのまちづくりの推進
- 2 三芳町の歴史、文化、自然、産業等を活かしたまちづくりビジョン
- 3 未来の都市計画に「ガーデン・シティ(田園都市)」構想を

上記の3点の視点から、三芳町独自のコンパクトでスマートなまちづくりとして、「(仮称)みよしフォレスト・シティ構想」の策定に向けて取り組みます。



「武蔵野の落ち葉堆肥農法」の貢献

320年前から継承されてきた当地域の「武蔵野の落ち葉堆肥農法」は、独立行政法人国際協力機構(JICA)によって南米チリ、サンペテロ村で砂漠化防止の農村計画にも参考にされ、「低炭素社会」「環境保全型社会」「自然共生社会」へ貢献しています。



▲サンペテロ村の砂漠化防止の前(左)と後(右)

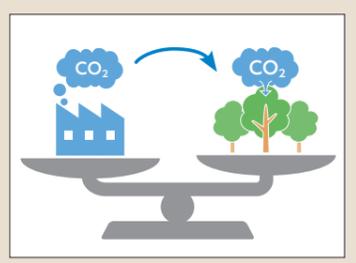
POINT 3つの 町政運営基本方針

1 さらに持続可能なまちを目指して

～プラネタリー・バウンダリー(地球の限界)の中で～

カーボンニュートラルのまちづくり、電気自動車の普及、活用、再生可能エネルギーの導入促進などの包括連携協定を締結している三芳町。さらなる持続可能なまちづくりを推進するために「ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。

持続可能なまちづくりを推進していくためにSDGs17の目標と各施策を関連づけてプラネタリー・バウンダリーを強く意識し、「みよしSDGs宣言」をされた企業、NPO、各団体、個人と、連携協力強化を図ります。



(地球の限界) プラネタリー・バウンダリー

9つの指標のうち、生物圏の一体性・生物地球化学的循環は、すでにレッドゾーンに、気候変動・土地利用の変化は、イエローゾーンに位置しています。

